

# 金沢町家の街並みを取り戻す！！

平成30年度 プロジェクトデザイン実践  
 テーマ：金沢町家の街並みを取り戻す  
 クラス・チーム：VS-F6  
 チーム名：スバゲッティ  
 メンバー：角谷直紀、金安雅乃香、東條鴻介  
 茂木達彦、寺尾祐輝、廣瀬崇希  
 担当教員：佐藤孝一

## 検証目的

ひがし茶屋街の問題点を、敷地調査や文献調査によって把握し、改善後のひがし茶屋街の模型の完成を目指す。

## 敷地調査

最終的な改善の目標を「ひがし茶屋街の外観の統一」とした。そこからさらに4つの細かい項目に分け、それぞれを調査するために第3週の授業で敷地調査に出かけた。その4つの項目を次に示す。

裏路地の電柱調査 町家の外観の調査 改善対象の抽出 ケーススタディ対象の選定

## 裏路地の調査

敷地調査の結果、ひがし茶屋街の本通りと裏路地では図1と図2のように景観に大きな違いがあり、裏路地はひがし茶屋街の景観を阻害していると感じられた。よって、裏路地を本通りと同じく、住宅を町家に変え、電灯をガス灯に変える方針となった。その一貫として、電柱を隠すために「地中送電」という方法を提案する。



図1 裏路地の様子



図2 本通りの様子



図3 裏路地の電灯



図4 本通りのガス灯

住民の暮らしのなかで電力は必要不可欠なもの。電力源を地中に隠す「地中送電」という方法をとることによって、景観の害をなくすることができ、住民の生活に支障をきたすこともないと考えられる。しかし、この「地中送電」によるリスクとして次の項目が挙げられる。

- ・送電容量が小さい
- ・建設費が高い
- ・地震の際の送電が難しい

## 町家の外観の調査 改善対象の抽出

現在のひがし茶屋街の外観の様子を確認するとともに、改善対象の抽出を行うため、建物の高さや外壁の色を確かめるのに有効であると考えた連続立面写真の撮影を実施した。



図5 本通りの連続立面写真をつなぎ合わせた図

保全方針	茶屋街としての歴史的街並みの背景を保全し、城下町金沢を代表する景観を育成する。
建築物等	高さ→茶屋街の背景に突出しないように努める。 形態→茶屋街の背景として突出する場合は、茶屋街の雰囲気として調和するように配慮する。
条令第2号第5条(3)	色彩→茶屋街の背景に突出する場合には、茶系等を基調とし、茶屋街の雰囲気に融和するように配慮する。 伝統的建造物の除却については、除却後の状態が当該伝統的建造物群の特性を維持していると認められるものであること。

図6 ひがし茶屋街A区域の条例

町家の外観の調査結果として、図5のように建物一つ一つに統一性がないことが挙げられた。さらに図5の右から2番目のS造建築物は、図6の条例に反しているという考えとなった。他にも図6の条例に反している建物が調査範囲内だけで約3割を占めていることもわかった。裏路地の調査でも述べたように、町家に変えることや図6の条例にのっとる建築物にリノベーションすることから取り組む。

## ケーススタディ対象の選定(結果)

前回の中間発表で、次の項目をケーススタディの対象とした。

- ・金沢工業大学の学生がDIYリノベーションに取り組んでいるToiroプロジェクトのような学生団体に呼びかけ、地域連携も兼ねた外装のDIY活動を促し、町家への改善を図る。
- ・ワークショップを開き、参加者に体験という形で問題解決に取り組んでもらう場を設ける。

中間発表後

Toiroプロジェクトにアポを取り、実際の活動内容や事例などの具体的な話を聞くことができた。

Toiroプロジェクトの学生は建設会社や施主と大学の三者のもと、DIYリノベーションを含めた個性的な空間づくりに取り組んでいる。この話により私たちが考えたものとして、学生や一般人のレベルでどれほどのリノベーションが行えるのかというものである。できるレベルとして、木材の板や木格子などの手軽に使用できるものを壁に貼り付けて町家風に見せたり、ペンキなどで壁や柱に色を塗るなどの作業が挙げられた。作業人数として町家の大きさや作業効率を考慮して8人〜15人ほどが最も良いと考える。

## アンケート調査

中間発表後に私たちの活動内容に関するアンケート調査をVSの2年145人に行った。

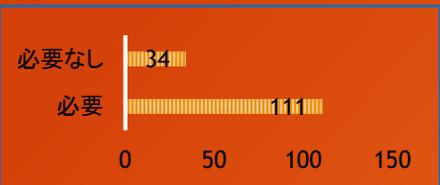
「私たちの活動で、ひがし茶屋街に存在する景観を阻害していると思われる建築物のリノベーションを行いたいと考えている。ワークショップを開催し、学生が主体となって地域住民や企業の協力のもと金沢町家と呼べる街並みを取り戻したい。」

質問1：(写真5)のような建築物をリノベーションする必要があるか

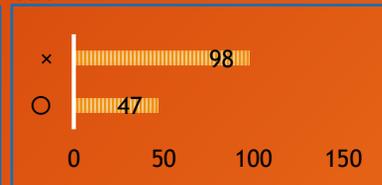
質問2：ワークショップ以外の方法で改善策を考えるべきだ。○か×か

質問3：私たちは(図7)の中の何が景観を阻害している要因と考えている。それは何か(理由も含めて回答してください)。

質問1



質問2



質問3



図7 景観を阻害している要因

全体のアンケート結果を見てみると、全体の役7割以上の方がひがし茶屋街の景観を阻害している建築物のDIYリノベーションやワークショップの開催に賛成していることが分かった。また、質問3の解答には「電線が多く見栄えが悪い」「電柱が目立って邪魔」といった意見があった。これらの結果からリノベーションだけではなく、無電柱化や街灯などの改善は、提案だけでなく、学生や地域住民が関連して改善できないか模索する必要があると考える。

## 完成模型



## まとめ

これまでひがし茶屋街の景観を改善するために様々な活動を行ってきた。しかし、時間的な都合のために、模型のクオリティ面や、実際のひがし茶屋街での景観改善に関するアンケート調査などが行えなかった。やり残った課題として、Toiroプロジェクトから聞いた話や、完成した模型から、現在確認できているひがし茶屋街の景観を阻害している建築物が全体の約3割であることに對して、全体の約1割に減らすというものが挙げられる。